

会山行 No.2235

**日光：日光白根山（湯元～前白根山～奥白根）**

- ◆日程 2019年1月19日（土）～20日（日）  
 ◆メンバー L：須田・林

なぜ冬の日光白根なのか？その疑問に答えるには少々長い前置きが必要になる。私が登山を始めたのは今から25年前、1994年春のことで、夏の劔岳や秋の穂高連峰を経て、冬にも山に行きたいと思い、12月に大阪の社会人山岳会に入会した。実働会員は10人足らずと小規模だが、いわば「小粒ながらピリリと辛い」的な山岳会で、グランドジョラス北壁やケニア山のダイヤモンド・クーロアールの登攀、国内では丸山東壁や明星山でのアメリカンエイドの新ルート開拓を行う等、意欲的な会だったが、クリスマスの3連休は特に計画が無いという。気落ちする私であったが、山岳雑誌の登山スクールのページが目にとまる。いくつか掲載されている中で格段に安かったのが「野外学校 FOS・第1回八ヶ岳クリスマス山行」だった。連絡先は戸高雅史とあり、思い切って連絡を取ってみる。郵送された案内を山岳会の会長に見せると、ガイド登山にあまり肯定的ではない会長も「経歴の割には名前を売ってない人やねえ。力がある証拠やわ。合理的なプログラムやし、これやったら、ええんちゃう」と快く送り出してくれた。

山行初日、初めて出会う若者10数名と共に赤岳鉱泉へ向かう。美しく雪化粧した樹林帯はまるで天然のクリスマスツリー。そんな素敵なアプローチに早くも大感激。到着後、雪上訓練を行い、夜は生まれて初めての雪山での幕営を経験。2日目は硫黄岳登頂後、帰路のジョージ沢でアイスクライミングを体験。3日目は阿弥陀岳北稜へのチャレンジ。アイゼンでの岩登りにビビりながら、みんなの待つ山頂へ。登頂後、一般道をグリセードを交えて駆け下り、下降の楽しさも知る。まるっきりの登山初心者を対象としながらも、3日間でアイスクライミングからバリエーションまで体験する充実のプログラム、戸高さんをはじめとした素晴らしい仲間たちとの出会いなど、この山行は文字通り私に雪山への扉を開いてくれた。

年末年始には1人で八ヶ岳に入り、2泊3日で赤岳から白駒池まで縦走した。3月初旬には「野外学校 FOS・厳冬の富士」に参加。八ヶ岳の時とほぼ同じメンバーで御殿場口から登るが、結構な大雪で最後は高度障害がひどく、登頂こそしたものの、下山では10歩毎に座り込んでしまう体たらくで、完全に暗くなってからの下山となってしまった。これが私の冬富士の原体験となり、のちに高所順応を兼ねて何度か通うことになる。厳冬の富士で、サブガイドの辻駒さんと戸高さんが「日光白根って結構いい山ですよ」と交わっていた会話が何故か印象に残り、当時「野外学校 FOS」でも冬の日光白根の参加者を募集していたこともあり、大阪からは遠く知らない山ながらも、八ヶ岳や富士山と並んで私の記憶の中に残っていた。

ちなみにご存知の方もいるかと思うが、戸高さんはその年（95年）の夏に無酸素アルパインスタイルでのブロードピーク三山縦走（ククチカ・クルティカペアに次ぐ第2登）、翌96年夏にK2無酸素単独登頂（日本人初）を果たしている。

私はその後、転勤と共に活動の場を大阪から東京、名古屋、東北と移してきたが、豪雪地帯の山に行くことが多く、なかなか日光白根に向かう機会は無かった。横浜山の会に入会し、今回ようやく計画が実現する運びとなった。

**1月19日（土） 天候：晴れ時々雪**

早朝出発で首都高に乗り、速攻で日光に向かうはずが、ナビの誘導を見誤って途中で下道走る羽目になり、時間を浪費。9時過ぎに現地に着き、湯元温泉の北駐車場（無料）に駐車。到着時間が遅かったため、湯元温泉スキー場は営業を開始していて、ここはありがたくリフトを使わせていただく。リフト券売り場では、リフト2本乗り継ぎなので2人なら4回券がお得だと勧めてくれた。傾斜の緩いリフトを2本乗り継いでスキー場トップへ。標高はあまり稼げて

いないが、ロスした時間はいくらか取り返せた。

リフト降り場からはトレースがあったので、とりあえずツボ足でスタートするが、結構もぐってしまうので、すぐにワカンを付ける。最初の急登が長くなかなかキツイ。ほぼ一定の傾斜がどこまでも続く。途中で雪面が固くなり、アイゼンに付け替える。先行パーティー(3人)を追い越してしばらく歩いたところでようやく視界が開けた。外山尾根の本稜まで標高差 500m の急登だった。3人パーティーはここから下山するとのこと。我々は小休止の後、前白根山目指して西へ向かう。途中下山してくる単独行者が2人、どちらも前白根までのピストンで、前白根付近の風が強いとのこと。前白根の頂稜に出た所で、ドッカーン!!と立派な頂が見えてきた。あまりに立派すぎて一瞬目を疑ったが、あれが奥白根???無雪期にも登ったことがなく今回が初見だが、これほど威厳のある山容とは!「白根」という名前からもっとたおやかな山容を勝手に想像していた。確かに強風だが、横浜から1泊の予定で来ているので、これぐらいの風ならば引き返す理由にはならない。奥白根の威容に導かれるように避難小屋を目指す。道標や赤布のおかげで迷うことなく小屋に到着。スキー場トップから4時間足らずだった。

小屋の2階への梯子を登って中に入るが、積雪量はそれほどでもないの、1階出入り口付近を除雪して1階から出入りできるようにする。土間にテントを張り、早い夕食の後、20時過ぎにシュラフに入る。夜中に外に出ると、満月手前の月が出ていて、明日の好天を期待させる。

(記:林)

CT: 湯元温泉駐車場 9:40 - 湯元温泉スキー場トップ 10:00 - 2160m付近コル  
11:50/12:05 前白根山 13:25 - 五色沼避難小屋 13:55

## 1月20日(日) 天候: 雪のち曇り

4時30分起床。ラジオの天気予報は栃木県南部の晴れ基調と北部の曇り基調を伝えているが、日光白根はどちらなのか?まあ、微妙な天気になりそうだ。小雪がちらつく中、まずは樹林帯の登高。やがて数日前のトレースや赤布が見当たらなくなるが、まあ登りなのでそのうち出てくるだろうと、なるべく合理的なライン取りで登っていく。日光というと寡雪のイメージがあるが、奥白根というだけあって、ワカンをつけていても膝下までもぐってしまう。標高差80mぐらいの間隔でトップを交替しながら登り、1時間で標高差250mぐらいのスピードが精一杯。頂稜の手前で雪面が固くなり、アイゼンに付け替える。とりあえずラッセルからは解放され、高い方を目指して登高していくと、ガスの中に見えてきた神社の傍に道標があり、山頂の方向を示している。もう少しのはずだが、ホワイトアウトでよく分らず、岩稜帯となる。おや?と思いつつもこれを登っていくとやがて山頂へ。せっかくなので2人並んでセルフタイマーで記念撮影するが、強風でカメラがずれたり広げた会旗がはためいたり、これはこれで大変な作業だ。強風のため、休憩は後回しにして下山に入る。道標に従って降りていくと、正式ルートは先ほどの岩稜帯をショートカットするように神社に続いていた。道標と時折現れるトレースを辿りながら下り、樹林帯に入ったところでワカンに付け替える。下山開始から1時間強で小屋に着き、荷物を撤収。前白根から下は天狗平経由のトラバースルートを下る。外山尾根の下降点では3人パーティーがランチを楽しんでいた。この先には進まないということか?厳冬期はせいぜいここ前白根までの日帰りというのが一般的なのかもしれない。当初は初級者も含めて参加募集したものの、メンバーが集まらず、結果的に須田CLと2人の計画に落ち着いた訳だが、強風、ホワイトアウトという気象条件のもと、結構手応えのある山行だった。

(記:林)

CT: 五色沼避難小屋 6:40 - 奥白根 8:30/8:35 - 避難小屋 9:50/10:30 - 前白根山  
11:00 - 湯元温泉スキー場トップ 12:30 - 湯元温泉駐車場 13:00



奥白根の威容



奥白根への急登 膝までもぐるラッセル



強風の奥白根山頂 奇跡的に撮影成功

